特定非営利活動法人 ひらかた環境ネットワーク会議

平成 30 年度 第 1 回理事会議事録

1. 日時：平成 30 年 5 月 11 日（金） 午前 10 時 30 分 1 時分

2. 会場：サプリ村野　環境保全研修室

（特定非営利活動法人　ひらかた環境ネットワーク事務局会議室）

3. 理事総数：17 名

4. 出席者数：出席 17 名（本人出席：13 名、委任状出席：2 名　議決権行使書：2 名）

5. 議　案：第 1 号議案　役員候補者の選任に関する件

第 2 号議案　運営委員任命の件

第 3 号議案　平成 29 年度事業報告書(案)承認の件

第 4 号議案　平成 29 年度活動決算書(案)承認の件

第 5 号議案　平成 30 年度事業計画書(案)承認の件

第 6 号議案　平成 30 年度活動予算書(案)承認の件

6. 議事経過及び結果

(1) 理事が本日の理事会は、定款第 36 条に定める定足数を満たして有効に成立している旨を述べて、開会を宣言した。

(2) 定款第 35 条の規定に基づき、伊丹理事が議長に就任した。

(3) 定款第 39 条第 6 項の規定に基づき、議長が議事録作成人に事務局、議事録署名人に末岡理事、増本理事を指名した。

(4) 第 1 号議案「役員候補者の選任に関する件」

大阪ガス株式会社の湊理事に代わり黒津氏を、枚方青年会議所の藤田理事に代わり小林氏を理事候補として上程した。その後議長が全員に諮ったところ、全員異議無く原案どおり承認可決した。

・新理事候補者 黒津 歩(大阪ガス株式会社)・新理事候補者 小林 雅祥（枚方青年会議所）

(5) 第 2 号議案「運営委員任命の件」

本日理事会をもって全運営委員の任期が満了するのに伴い、議長は上記議案を上程した。運営委員候補者名簿について、議案書のまちづくり部会代表は阪本征夫氏に環境教育部会代表は阪口重樹に決定したことを報告し、本日候補者として上程した。

議長が承認を全員に諮ったところ、全員異議無く原案どおり承認可決、運営委員 10 名

が任命された。又、運営委員長には丸井晶子が選任された。

＜運営委員＞伊丹均(再任)、市山二郎(再任)、井上祥子(再任)、末岡妙子(再任)、宮村隆喜(再任)、豊高勝(再任)、丸井晶子(再任)、川南裕（再任　枚方市環境部次長）阪本征夫（新任　まちづくり部会代表)、阪口重樹（新任　環境教育部会代表）

＜運営委員長＞丸井　晶子(再任)

※質疑応答

井上：運営委員は部会代表ではなく、個人名なのか

丸井：個人名でお願いしたい。

末岡：退任された方の指名も議案書に書いてはどうか。

伊丹：議案以外のことなので、口頭で説明する。

伊丹：運営委員候補者の欄に部会名など所属を記してはどうか。

丸井：次年度から付け加える

(6) 第３号議案　「平成 29 年度活動報告書(案)承認の件」、

第４号議案　「平成 29 年度活動決算書(案)承認の件」

議長は上記議案を上程し丸井理事が概要の説明を行った。その後議長が質疑を求めたところ、下記要約の通り質疑応答が行われた。その後、提案された修正も含め議長が承認を全員に諮ったところ、全員異議なく修正原案を承認可決した。

※質疑応答

井上：決算の備考欄の「ソロプチミスト枚方―中央」を「国際ソロプチミスト枚方―中央」と修正していただきたい。また、Resh を使用するなら全て大文字だが、あまり使用しないので自然エネルギー学校としてはどうか。

丸井：「国際ソロプチミスト枚方―中央」「自然エネルギー学校」に訂正する。

市山：まちづくり推進事業の実績が 0 円となっているのはなぜか。

丸井：まちづくりウォークはスターター講座として実施しているので、支出実績は環境講座開催事業に含まれている。

伊丹：ウォーキングの参加費収入がまちづくり推進事業に入っているのでわかりにくい。

丸井：補助金の関係もあり、決算書の事業項目の環境講座に、自然エネルギー学校、スターター講座(ウォーキング、ミニ講座)、くらわんか塾の実績を合算で記載している。決算書の項目はこのままとし、事業報告には、それぞれの講座に振り分け

て記載し、誤解されないように工夫する。

末岡：M・M事業の収入の備考欄に「交通タウンマップ」と記してほしい。

丸井：加筆する。

増本：天の川を清流にする会は、４市合同の天の川サミットを行った。今年度は枚方市が開催市で、環境ネットワーク会議が事務局としてお世話いただいた。サミットには枚方市長や副市長、環境部長や各市からも市長等の出席があり、成功裏に終えることができたが、この件は事業報告には反映されないのか。

末岡：これこそが中間支援としての大きな働きなので、ぜひ議案書に反映すべきだ。また、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会の事務局も担っているのも、ぜひ記載すべき。

丸井：加筆する。

市山：寄付をどう集めるか。海外では寄付が簡単に集まるようだが、日本には寄付の文化がない。寄付金を集めることは難しいか。

丸井：寄付金を市民から集めるのは現実難しい。３と５が寄付となっているが、これは主に団体からの寄付であり、使途が決まっているものが多い。

末岡：活動に参加できない会員からの会費は意味合いとしては寄付に等しいのではないか。そういった意味で会員を拡大することが大切である。また、スタンプラリーの景品提供もいわば寄付といえる。そういったイベントなどに賞品を提供するほうが企業は出しやすいようだ。

藤田：補助金や寄付金ありきで考えるより、「この事業をするから、一緒にやりましょう、と声をかけて会員を増やす」ということを我々はやっている。

末岡：素晴らしい考え方だ。見習って会員拡大をしていきたい。

伊丹：賛助金収入というのを寄付とは分けている理由がわかりにくい

丸井：温暖化対策事業に賛同してエコノート等に企業名を載せる条件で援助頂いているから賛助金としている。

井上：それならば、企業側は広告費という名目で出資いただいているのではないか。

丸井：広告収入を得るということも併せて今後の検討課題とする。

(7) 第５号議案　「平成30年度事業計画書(案)承認の件」、

第６号議案　「平成30年度活動予算書(案)承認の件」

議長は上記議案を上程し、第５号、第６号議案について丸井理事が概要の説明を行っ

た。その後、議長が承認を全員に諮ったところ、全員異議なく修正原案を承認可決した。

※質疑応答

末岡：自然エネルギーの活用のところに、市が不要となったソーラー電灯を利活用するという事業を含めた方がいいのではないか。

井上：ソーラー電灯は引き取ることまでは決定し、それをどうするかが今年度の課題であり事業となる。例えば、「設置希望者を募集する」 などを検討している。

伊丹：それは当法人の財産となるのか。

川南： 市としては廃棄処分品なので、資産としてお渡しするものではない。

谷崎：ごみをごみとして受けるのではなく付加価値をつけてはどうか。また、廃棄するときに金銭がかかるのは避けたい。

丸井：今年度は自然エネルギー普及啓発事業の欄に一文加筆する。

谷本：事業計画書における収入見込額と支出見込額の関係はどうなっているのか。

丸井：中間支援・環境教育・モビリティマネジメントについては、実際に収入が発生するので収入見込み額として計上している。そのため、収入見込額と支出見込額に差がある。他の事業は総予算の中からそれぞれに予算割り当てをし、それを収入見込み額としている。

末岡：9-（４）に「様々なテーマで枚方をめぐるコースおすすめコンテスト事業を実施する」の一文を付け加えてほしい。

7. **その他**（報告、意見交換、今後の行事説明など）

8. **閉会のことば**

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。（12 時 02 分）

上記の議事の要領及び結果を明確にするために、議長並びに議事録署名人 2 名が、次に記名押印する。

平成 30 年 5 月 11 日

特定非営利活動法人ひらかた環境ネットワーク会議　理事会

議　　長　　伊丹　均　㊞

議事録署名人　　増本　勝久　㊞

議事録署名人　　末岡　妙子　㊞